

## 神戸沖、大阪湾断層および和田岬断層の完新世における活動履歴調査

## Holocene activity of the Osaka-wan and Wada-misaki faults off Kobe, central Japan

# 木下 博久[1], 原口 強[1], 七山 太[2], 杉山 雄一[3], 竹村 恵二[4], 北田 奈緒子[5], 斎藤 礼子[5], 井上 直人[6]

# Hirohisa Kinoshita[1], Tuyoshi Haraguchi[2], Futoshi Nanayama[3], Yuichi Sugiyama[4], Keiji Takemura[5], naoko kitada[6], Reiko Saito[6], Naoto Inoue[7]

[1] 復建, [2] 地調・地震, [3] 地調, [4] 京大・理・地球物理, [5] 財)大阪土質, [6] 京大・院・理・地球惑星

[1] Fukkenco, [2] Fukken, [3] Earthquake Research Dept., GSJ, [4] GSJ, [5] Dept.Geophysics, Grad. Sci., Kyoto Univ., [6] G.R.I.,Osaka, [7] Kyoto Univ.

大阪湾北西部の神戸沖海域には、大阪湾中西部から延びる大阪湾断層、これより分岐するかたちで発達するとされる和田岬断層、摩耶断層、六甲アイランド断層が分布する(岩淵ほか, 1995; 横倉ほか, 1995, 1998)。

今回これら断層群の完新世における活動履歴を明らかにすることを目的として、神戸沖海域においてソノプロープ音波探査およびボーリング調査を行った。

ソノプロープ音波探査の結果、和田岬沖約4kmに北東走向に発達する大阪湾断層と和田岬先端から神戸港内に北北東走向に発達する和田岬断層の存在が確認された。両断層とも沖積層に明瞭な変位を与えており、完新世に活動していることは明確である。反射記録から読み取れる垂直変位量は、大阪湾断層において3~10mで、変位の累積が認められる。和田岬断層の垂直変位量は約4mで、変位に累積はない。なお、大阪湾断層北東端から北方へ分岐するとされる摩耶断層、六甲アイランド断層については、いずれも沖積層への変位は認められなかった。

ボーリング調査は神戸港内の和田岬断層の両側で実施した。得られたコアは貝殻を多含する粘土層と粘土~砂質シルト層からなり、総じて生物擾乱が著しく発達している。現在、このコア試料を用いて各種分析(層相観察、軟X線撮影、帯磁率測定、粒度分析、微化石分析、14C年代測定)を進行中である。そしてこの分析結果から、活動時期の特定を試みる予定である。

さらに今後、コア試料分析結果と音波探査記録との対比、14C年代測定結果から、大阪湾断層および和田岬断層の最新活動時期をはじめとする活動履歴を詳細に明らかにしたいと考えている。